

R8 産業医実務研修記録（PTR）作成・評価の手引き

1. R8 PTR の位置づけと目的

R8 産業医実務研修記録（以下、R8 PTR）は、産業医専門研修において専攻医の実践能力（コンピテンシー）を可視化し、形成的評価および研修修了判定の基盤とする中核的記録である。本記録は単なる業務報告ではなく、専攻医が何を考え、どのように判断し、どのように行動し、何を学んだかを示す実践の軌跡として位置づける。

〈目的〉

専攻医の目的

- ・ 実践過程における思考・判断・行動を構造的に記録する
- ・ 指導医からの形成的フィードバックを通じて、事例からの学びを深化させる
- ・ 第三者が読んでも評価可能な標準化された記録を残す

指導医の目的

- ・ R7 コンピテンシーを踏まえて到達度を評価する
- ・ 専攻医の強みと課題を明確化する
- ・ 次の実践につながる具体的助言を行う

2. R8 PTR 作成・評価の理念と基本構成

R8 PTR は、実践→内省→改善の学習サイクルを明示する記録とする。作成および評価にあたっては、以下の理念を共有する。

(1) 思考過程の可視化

単なる経過の羅列ではなく、何を問題と捉えたか、なぜその判断を行ったか、なぜその介入を選択したかを明確に記述する。

(2) エビデンス・法令に基づく判断

産業医としての判断には、可能な限り以下の根拠を示す。

- ・ 法令（安衛法等）
- ・ ガイドライン
- ・ 学術的知見

- ・実務上の合理的根拠

(3) 全人的・組織的視点

働く人を個人としてだけでなく、職場集団、組織体制、業務特性を含めた産業保健的視点で捉える。

(4) 第三者可読性の確保

異なる指導医・評価者が読んでも理解できるよう、必要十分な情報整理、論理的一貫性、個人情報への配慮を徹底する。

3. R8 PTR の推奨構成（専攻医作成・指導医評価の共通枠組み）

R8 PTR は、以下の要素が伝わる構成とする（項目順は必ずしも固定しない）。

① タイトル

- ・事例の本質が一読で分かる表現とする

② 基本情報（場面、期間、場所、関係者等）

- ・研修場面が把握できる最小限の記載とする
- ・個人特定情報は記載しない

③ 事例概要・背景

- ・相談内容
- ・業務・健康・職場背景
- ・状況の重要ポイント

を簡潔に整理する

④ プロブレムリスト

- ・産業保健的観点で問題を構造化する
- ・優先度を意識して整理する

⑤ アセスメントと判断根拠

- ・面談・観察・職場情報
- ・法令・ガイドライン等の根拠
- ・判断に至った理由

⑥ 実施した介入

実施した対応を具体的に記載する：

- ・ 本人への対応
- ・ 上司・人事との調整
- ・ 職場改善提案
- ・ 多職種連携 等

⑦ 結果と今後の見通し

以下の観点で簡潔に記載する：

- ・ 短期的変化
- ・ 中期的プロセス変化
- ・ 長期的到達目標とフォロー

※未完了事例でも記載可

⑧ 考察（形成的評価の核心）

必ず以下を含める：

- ・ 判断の妥当性の検討
- ・ 他の選択肢の検討
- ・ 学びと今後の改善点
- ・ 指導医コメントを踏まえた追記（日時明記）

※指導医のフィードバックを受けて記載する

指導医評価について

指導医評価は、個別項目の厳密な採点を目的とするものではなく、専攻医の成長を支援する形成的フィードバックを主眼とする。指導医は、以下の観点で簡潔に確認・助言を行う。

（1）全体像の把握

- ・ 事例の選択が R7 コンピテンシーに概ね対応しているか
- ・ 専攻医の思考過程が読み取れるか

※細部の形式より内容理解を優先する

(2) 特に重要なポイントの確認

必要に応じて以下を重点的に確認する：

- ・問題把握の妥当性
- ・判断根拠の明確性
- ・介入の実務適合性
- ・考察の深さ

※すべてを毎回網羅的に評価する必要はない

(3) 助言・フィードバック

コメントは簡潔でよく、特に以下を重視する：

- ・専攻医の強み
- ・今後伸ばすべき点
- ・次に経験するとよい実務領域

(4) 負担軽減の原則

- ・詳細な添削や逐語修正は必須ではない
- ・明らかな問題がなければ簡潔なコメントでよい
- ・到達が不十分な点に焦点化して助言する

※指導医評価の目的は「判定」ではなく、専攻医が次の実践で一步成長するための方向づけにある。そのため、到達が不十分な点に焦点を当て、専攻医が気付ける助言を行う。

付録：R8 PTR 記載チェックリスト

【提出前チェックリスト】

指導医提出前のセルフチェックとして活用する

- ☐ タイトルは要点を端的に表している
- ☐ 個人が特定される情報は含んでいない
- ☐ 問題点を適切にリスト化できている
- ☐ 判断の根拠（法令／ガイドライン）が示されている
- ☐ 代替案や他の選択肢の検討が記載されている
- ☐ 産業保健・多職種協働の視点がある
- ☐ 実践からの学びが整理されている
- ☐ フォーマットに沿い、A4 1 枚程度に収まっている

初版発行日：2026 年 5 月 19 日